

第11回 筑波小中高大連携社会科授業研究会

テーマ ～よりよい社会をつくるために必要な力とは何か～

日程 2025 年 1 月 18 日 土曜日

会場 筑波大学附属中学校・高等学校 桐蔭会館

受付	開会行事	公開授業 (小学校) 50 分	公開授業 (中学校) 50 分	昼食	公開授業 (高校) 50 分	研究協議 100 分	閉会行事	
9:30	9:50	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:45	16:00

1. 公開授業（小学校）

授業者：鈴木遼輔

小学校の学齢期における、よりよい社会を作るために必要な資質・能力は、「相手の立場や状況（まとめて背景）を想像する力」である。年齢が低ければ低いほど、社会的に事象に対して「情意」で捉える度合いが大きい。その「情意」に「事実」を出会わせていくことにより問いが生まれるのである。今回は、スマート農業によって変わって日本の農業の在り方を子ども達と考えた。様々な諸課題を解決しうる可能性をもった植物工場と露地栽培を比較するとともに、そこに携わる人の視点を借りて、農業という産業の変容について考えていった。

2. 公開授業（中学校）

授業者：関谷文宏

主権者としての資質・能力を高めることが「よりよい社会」の実現には不可欠である。公開授業に先立ち、社会科学系の総合学習のコース選択者に4つの仮想政党をつくらせ、社会科の授業では3年生がどこかに仮想政党に所属し、全員が長野県飯田市長選挙を想定して立候補者としての公約をつくる学習を行った。公開授業では、4人の仮想政党の党首、5人の立候補者が演説を行い、参観していただいた先生方に投票をお願いした。投票と同時に求めたコメントを生徒が分析して、政党政治と地方政治の関係などをさらに追究していく。

3. 公開授業（高等学校）

授業者：熊田亘

「よりよい社会をつくる」ためには、個人と社会の関係を理解することが必要になる。そして、自由で平等な個人によって構成される民主社会でのその関係は、残念なことにしばしば社会的ジレンマ的な状況に陥る。そこで今回、高校2年生の「公共」で社会的ジレンマを取り上げ、いくつかの事例についてその構造を知り、解決法を探った。

4. 研究協議

パネリスト：鈴木・関谷・熊田 司会：山形友広（附属中学校）

各校種の授業を振り返った後、フロアからの質疑なども交えつつテーマに沿った議論を深めた。身に着けるべき「力」の系統性について、知性と情動について、主権者教育の在り方についてなどの論点が示された。

○本研究会について

本研究会は、筑波大学附属小学校、筑波大学附属中学校、筑波大学附属高等学校、筑波大学の社会科教育に関わる教員で構成した研究会です。プレ大会やコロナ禍のオンライン開催を挟みながら、年1回開催し、今回で第11回目の開催となりました。小中高3校種の実際の授業を参観いただいた後、テーマに沿って研究協議を実施しており、例年は大学教員もコメンテーターや講師として迎えております（今年度は欠席）。今年度の校外からの参加者は約70名で、協議、その後の懇親会とも大いに盛り上がりしました。